【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成29年10月19日(2017.10.19)

【公開番号】特開2017-120306(P2017-120306A)
【公開日】平成29年7月6日(2017.7.6)
【年通号数】公開・登録公報2017-025
【出願番号】特願2015-256413(P2015-256413)
【国際特許分類】
Ｇ０２Ｃ　5/04　(2006.01)
Ｇ０２Ｃ　7/06　(2006.01)
Ｇ０２Ｃ　5/14　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０２Ｃ　5/04
Ｇ０２Ｃ　7/06
Ｇ０２Ｃ　5/14

【手続補正書】
【提出日】平成29年9月4日(2017.9.4)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
本発明はツルを表裏反転すると共に眼鏡全体を上下反転して異種類のレンズなどが簡単に使い分け可能になると共に、レンズなどの中心とツルの後端側の高さ（目の高さ）を合致させて眼精疲労が軽減される遠近両用眼鏡状のフレームを提供することを目的とする。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
本発明は上記現状に鑑みて成されたものであり、つまり、上下に配置したレンズＡ，Ｂを保持する一対のレンズ保持枠と、該一対のレンズ保持枠を略中央高さで連結するブリッジと、各レンズ保持枠の外側で且つその略中央高さに設けた表裏反転手段と、折畳み可能に取付けるツルと、ブリッジの両端部には表裏反転した際に鼻に当接して支持出来るように設けた鼻当部と、ツルを折畳むための折畳み手段と、から少なくとも構成し、且つ、ツルに垂直方向の段差部を設けたものと成す。また前記段差部が、レンズＡ或いはレンズＢの中心とツルの後端側の高さが合致される段差と成し、前記表裏反転手段が、各レンズ保持枠の外側で且つその略中央高さに設けた取付部と、該取付部の外側へ水平に突出する丸棒状の軸と、該軸の外周に突出させる溝用ピンと、軸を内部に挿入して１８０度回動させると共に溝用ピンが挿入されて摺動するガイド溝を有した円筒体と、から少なくとも成されたものとしても良く、且つ、前記表裏反転手段が、各レンズ保持枠の外側で且つその略中央高さに設ける軸受と、該軸受に軸支される垂直嵌合片及び折畳み手段に軸支される水平嵌合片を有した作動杆と、該作動杆を軸受に軸支するためのピンと、から少なくとも成されたものとしても良い。また折畳み手段が、ツルに固着すると共に作動杆の水平嵌合片を軸支する折畳み用軸受と、該折畳み用軸受に作動杆の水平嵌合片を軸支するためのピンと、から少なくとも成すと良い。尚、本発明で言う「略中央高さ」には、中央高さ及び中

央高さ付近の高さも含むものとする。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】
請求項１のように上下に配置したレンズＡ，Ｂを保持する一対のレンズ保持枠（１）と、該一対のレンズ保持枠（１）を略中央高さで連結するブリッジ（２）と、各レンズ保持枠（１）の外側で且つその略中央高さに設けた表裏反転手段（３）と、折畳み可能に取付けるツル（４）と、ブリッジ（２）の両端部には表裏反転した際に鼻に当接して支持出来るように設けた鼻当部（５）と、ツル（４）を折畳むための折畳み手段（６）と、から少なくとも構成し、且つ、ツル（４）に垂直方向の段差部（７）を設けることによって、表裏反転して異種類のレンズなどを簡単に使い分け可能となると共に、レンズの中心とツル（４）の後端側の高さ（目の高さ）を合致させれば、眼精疲労が軽減されるものとなる。特にレンズＡの眼鏡とレンズＢの眼鏡の２種類の眼鏡を使い分けて単独の眼鏡として使用される状態と略同一の感覚となり、表裏反転しても目の高さがズレないので、極めて見え易いものとなる。しかも本発明品は、眼鏡が装着された状態でレンズ保持枠（１）の表裏反転が出来るものとなるので、レンズＡとレンズＢの切換えが一瞬で行え、使い勝手が極めて良いものとなる。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
請求項２のようにツル（４）にレンズＡ或いはレンズＢの中心とツル（４）の後端側の高さが合致されるような段差部（７）を設けることにより、レンズＡとレンズＢの使い分けが簡単で迅速で且つ確実に行え、しかもレンズの使用範囲（視線の移動範囲）が広がるものとなる。また物を見る場合、正視する自然状態となり、眼精疲労が軽減可能なものとなる。更に従来品の如く調節や微調節することがないので、取扱いが極めて簡単なものとなるのである。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２０】
（６）はツル（４）を折畳むための折畳み手段であり、該折畳み手段（６）には、ツル（４）に固着すると共にツル（４）の先端部（41）の端部と水平方向に回動して折畳み可能に軸支するための折畳み用軸受（61）と、先端部（41）に対して水平方向に回動可能で且つ抜けないように軸支するためのピン（62）と、がある。又、図５の表裏反転手段（３）の場合は、ピン（62）が介在されて、作動杆（36）の水平嵌合片（36b）を折畳み用軸受（61）に軸支している。尚、前記折畳み手段（６）は表裏反転手段（３）と後述する段差部（７）の間に設けるのが好ましいが、図６の点線に示すように前記段差部（７）の後方に設けたものとしても良い。（７）は折畳み手段（６）の後方のツル（４）に設けた垂直方向の段差部であり、該段差部（７）は、レンズＡ或いはレンズＢの中心とツル（４）の後端側の高さを合致させるための段差である。この段差部（７）は表裏反転手段（３）よりも図中に於いては高くなっているが、低くしたものとしても良い。この段差部（７）を低くした場合の鼻当部（５）は、高くしたものよりも低い位置に設けられるものとなる

ため、表裏反転した時の鼻当部（５）は高くしたものよりも離れた位置に設けられたものとなる。（８）はツル（４）の後端部に取付けられた耳当部である。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２１】
次に本発明の作用を図７に基づいて説明する。先ず始めに（ａ）の状態について説明する。この状態で眼鏡を掛けると、ツル（４）の後端側の高さ（目の高さ）とレンズＡの中心が合致しているので、物が非常に見易く、且つ、レンズＡの上下を有効に使用できるものとなる。この時、レンズＢは使用面の裏側が目の方に配置されている。その後、レンズＢを使用する時は、先ず眼鏡を外し、ツル（４）を図中の矢印の如く前側へ回転することにより、ツル（４）はレンズ保持枠（１）に対して右側から左側へ回転される。すると、（ａ）の図中に示す２点鎖線のように耳当部（８）が上方に向いた状態となる。そして、その眼鏡全体を上下反転させて、耳に耳当部（８）を耳に掛けると、（ｂ）の状態となる。この時、上記レンズＡの時と同じようにレンズＢの中心がツル（４）の後端側の高さ（目の高さ）と合致するので、物を見る時に正視できるため、目の疲れが激減出来るものとなる。この場合、レンズＡの使用面は反対側になる。
実際に本発明品を使用する場合は、眼鏡を外さずにそのままの状態で、図７（ｃ）の矢印のようにレンズ保持枠（１）を手で１８０度回転することで、上記と同じ作動になるので、レンズＡとレンズＢの切換えが短時間で且つ容易に行えるものとなるのである。
【手続補正７】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
上下に配置したレンズＡ，Ｂを保持する一対のレンズ保持枠（１）と、該一対のレンズ保持枠（１）を略中央高さで連結するブリッジ（２）と、前記各レンズ保持枠（１）の外側で且つその略中央高さに設けた表裏反転手段（３）と、折畳み可能に取付けるツル（４）と、前記ブリッジ（２）の両端部には表裏反転した際に鼻に当接して支持出来るように設けた鼻当部（５）と、前記ツル（４）を折畳むための折畳み手段（６）と、から少なくとも構成し、且つ、前記ツル（４）に垂直方向の段差部（７）を設けたことを特徴とする遠近両用眼鏡状のフレーム。
【請求項２】
前記ツル（４）に設けた段差部（７）が、レンズＡ或いはレンズＢの中心とツル（４）の後端側の高さが合致される段差である請求項１記載の遠近両用眼鏡状のフレーム。
【請求項３】
前記表裏反転手段（３）が、前記各レンズ保持枠（１）の外側で且つその略中央高さに設けた取付部（31）と、該取付部（31）の外側へ水平に突出する丸棒状の軸（32）と、該軸（32）の外周に突出させる溝用ピン（33）と、前記軸（32）を内部に挿入して１８０度回動させると共に前記溝用ピン（33）が挿入されて摺動するガイド溝（34a）を有した円筒体（34）と、から少なくとも成された請求項１記載の遠近両用眼鏡状のフレーム。
【請求項４】
前記表裏反転手段（３）が、前記各レンズ保持枠（１）の外側で且つその略中央高さに設ける軸受（35）と、該軸受（35）に軸支される垂直嵌合片（36a）及び前記折畳み手段（６）に軸支される水平嵌合片（36b）を有した作動杆（36）と、該作動杆（36）を前記軸受（35）に軸支するためのピン（37）と、から少なくとも成された請求項１記載の遠近

両用眼鏡状のフレーム。
【請求項５】
前記折畳み手段（６）が、前記ツル（４）に固着すると共に前記作動杆（36）の水平嵌合片（36b）を軸支する折畳み用軸受（61）と、該折畳み用軸受（61）に前記作動杆（36）の水平嵌合片（36b）が軸支されるためのピン（62）と、から少なくとも成された請求項１記載の遠近両用眼鏡状のフレーム。